

○議長（滝内久生君） 質問順位 4 番、1 つ、下田市の公園への複合遊具設置について。

以上 1 件について、3 番 鈴木 孝君。

〔 3 番 鈴木 孝君登壇 〕

○3 番（鈴木 孝君） 皆様、おはようございます。公明の鈴木です。

議長の通告に従い質問をいたします。

下田市には駐車場があり楽しい遊具のある公園がない、ぜひ造ってもらえるように要望してほしいとの声を多く聞いたことから、私は令和 3 年 12 月定例議会の一般質問で、まどが浜海遊公園への大型複合遊具の設置を要望いたしました。

その後、令和 4 年 2 月 14 日、下田市民有志が、まどが浜海遊公園へ複合遊具設置を望む会として松木市長に要望書を提出、まどが浜海遊公園に複合遊具を設置し、市民及び観光客が交流できるコミュニティースペースをつくってほしいと要望をいたしました。

その後、まどが浜海遊公園へ複合遊具を望む会は、3 月 14 日から 5 月 10 日にかけて行った活動で、市内の幼稚園、保育園、協力事業所に署名書類を配備し協力を呼びかけ、市民 2,835 名と近隣の町 1,061 名の署名を集め、松木市長に提出、改めて遊具設置を要望いたしました。

その要望の様子は令和 4 年 5 月 13 日の伊豆新聞で記事として取り上げられ、松木市長は、まどが浜海遊公園は公園と名がつくが、県の港湾施設であり、様々な制約がある。他の公園も含めて課題を整理し、今後の計画をつくりたいと述べ、まどが浜への整備については明言を避けたと報道されました。

まどが浜海遊公園は県の港湾施設であることから、制約があり、進めるのが難しく、松木市長も進めるのに苦心している様子は伝わってきております。

この問題の原点は、駐車場があり楽しい遊具のある公園を造ってほしいという要望であります。まどが浜海遊公園に遊具の設置を要望したのは、芝生も植えられていて、トイレや休憩施設も整備されているため、お金をかけず設置が進むとの思いから、この場所が提案されております。

原点に返ると、今望まれるのは、駐車場があり楽しい遊具のある公園を一日も早く造ることです。市長は、他の公園も含めて課題を整理し、今後の計画をつくりたいとの意向は示しております。しかし、これでは、本当につくろうとしているのかが伝わっていないのが現状であります。要望した方々が一番聞きたいのは、市長が下田市に駐車場があり楽しい遊具のある公園を造るという決意であり、宣言であると感じます。市長がこの件に関してど

のような決意をお持ちか、聞きたいと思います。

以上で趣旨質問を終わります。

○議長（滝内久生君） 当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎君） おはようございます。鈴木議員からの駐車場があり楽しい遊具のある公園という御質問でございます。

公園の種類が大ざっぱに言うと2つあるんです。これは国のほうで出している様々なものを御確認いただければ分かると思うんですけども、住区基幹公園というのと都市基幹公園というのがありまして、要は、住んでいる身近なところにある公園、これは基本的には駐車場を設置しないで、歩いて行ける公園ということになります。例えば小学校なんかには大抵の人は歩いて子供たちは通っているわけです。歩いて行けるとところにしっかりと身近な公園があって、そこでママ友がいたり、あるいは御近所さんと楽しい会話をする、そういったことができる公園と、もう一つは都市基幹公園といって、もっと広い範囲で、広域的にみんながそこで集まって様々な目的をその公園に求めている。ですから、多機能な公園になります。運動機能に特化したような公園は運動公園というふうに言われます。いろんなものがある公園のことを総合公園と。さらに、もう都市を超えて県レベルというのは広域公園といって、静岡県にはたしか二、三個しかなかったような気がするんですけど、浜名湖のガーデンパークという公園とか、小笠山運動公園とかですね。あの辺がたしか広域公園だったような気がするんですが、そういった広域的なものに対しては、当然のことながら、車で来るようになるので、道路ネットワークのいいところに配置されます。よく下田の人たちが長岡とかいろんなところにいらっしゃるというのは、あれは河川敷をうまく利用しているような公園が多いんですけども、そういったところで、十分駐車場もあって、住宅からは離れているんだけど、そこに行くことによって子供さんがすごく楽しいという、そういったものだと思うんですね。

今回のこのまどが浜海遊公園という公園は、今、議員おっしゃったとおり、私が以前、実はあれは公園とは名ばかりであって、法律上は公園にもなってない。港湾管理者が港湾施設として、その一環として造ったものであって、その管理について、今までもある意味上手に、柔軟に運用をして、皆様に楽しんでいただいた。

例えば芝生の広場は、あの芝生のあの空間的な価値というのがありまして、例えば先般も黒船祭でフラの人たちが、美しい海の夕焼けあるいは夕闇の中でスポットライトを浴びて、

あの緑と後ろにある海とが調和した何とも言えない美しさを出している。ですから、あそこは空間的な意味でもすごく高い機能、いろんな機能を有しているという意味で、高く評価されていくと思います。

多目的に使えるということはすごく重要なことですね。何ならコンサートだってできるように、そこに仮設の屋根みたいなものを造って、こっち側がコンサートのやるほう、こっち側が見るほうというふうにうまく、いろんな使い方ができるっていう、そういう話ですね。

こうした、市内全域において、この辺にはこういう公園が、ここにはこういう公園がというふうにうまく配置するという全体的な視線がもちろんまずは必要になってまいります。そこで、この前そういうふうに、市内の公園の今のある姿を調べて、その上で総合的にどこにどういう機能が必要なのか、まどが浜海遊公園というのは名前だけの公園ではなく、本当の意味での公園として使えるようになるだろうかといったことについて、管理者と話をしていきますと、こういうふうに申し上げたわけです。それは、署名をいただいたときに私が申し上げた言葉ですね。

したがいまして、そのいただいた後、本来管理者である港湾管理者の静岡県下田土木事務所のほうに何回か私自身も話をしまして、もちろん当局間でも話をして、様々な課題を解いてやっていこうじゃないかというふうなことになっています。

もう一度繰り返して、念のために申し上げます。歩いて行ける公園というものも一方で大切であり、ウォーカブルなまち、歩いて楽しいまち、歩きやすいまちを私たち下田はある意味標榜していますので、そっちに向けた意識も押さえつつ、車で来るような、子供たちがある程度広域から集まって遊べるような公園、それぞれどういうふうにすべきなのか、敷根公園にじゃあ遊具は要らないのかと、こういうことも併せて考えていく必要がある、このように市長として考えております。

つまり、まずは早急に市としての公園整備の在り方について検討を進め、そして、それと並行して管理者と協議をしまして、今後の整備に向けて取り組んでいきたいと思っております。

私からは以上でございます。

- 議長（滝内久生君） 建設課長。
- 建設課長（平井孝一君） 改めましておはようございます。

市内の公園需要につきましては、昨日の中村議員の再質問の際でお答えしております。下田公園や敷根公園と、面積の広い公園はございますが、子育て空間としては課題があると認

識しております。

若者、特にその中で重要なポジションを担う子育て世代の暮らしやすいまちづくりの一環として、既存の公園の課題も含め、市長が申し上げたとおり、公園配置を検討していく必要があると考えております。

なお、まどが浜海遊公園における複合遊具設置については、平成29年4月に設置された県、市、関係機関等の参画によるみなとまち活性化協議会の交流拠点構想に基づき、平成30年度、市は当該公園に海岸保全区域内の占用協議を行い、大型複合遊具の試験設置を実施したところでございます。期間中に利用者アンケートを実施したところ、駐車場のある公園として多くの方から好評を得て、試験終了後も当公園に遊具の設置を求める声が多くありました。

都市公園を所管する課長としましても、今回の市民要望を強く受け止めております。市としましては、現役の子育て世代の方々に対し、駐車場、休憩所、トイレを備えた公園を早急に整備するためには、当該公園は有効な場所と考えておりますので、今後も県と調整を図り、進めてまいります。

- 議長（滝内久生君） 3番 鈴木 孝君。
- 3番（鈴木 孝君） ありがとうございます。

大分県の豊後大野市というところでは、この3月か4月頃に新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を使って、総合公園に大型遊具の設置が実現されております。市長がいろいろな、様々な課題を解決しながら、問題を解いていくという姿勢は伝わってきました。ただ、この臨時交付金を使ってやるのが、市の財政を考えたときに有効かなと思いますが、今年度中に執行、事業を完成させないと、もしかしたら交付金が使えないんじゃないかと思うんですが、そのいろいろな、様々な課題を解いていくといったときに、時間が長くなってしまうと、交付金の問題もありますけれども、要望した方々からは、じゃあいつになったらできるんだろうかということが非常に疑問というか、不安に感じると思うんです。

その決意という中には、今おっしゃったように、進めていくという決意は分かるんですが、じゃあいつまでにやろうとしているのかという目標というものが示されることが大切ではないかと思うんですが、その期日の目標というものがあるかどうかをお尋ねしたいと思います。

- 議長（滝内久生君） 市長。
- 市長（松木正一郎君） コロナ交付金、これは様々な使い方、これがそれぞれの自治体で工夫をしながら進められているわけです。直接給付のような形をしたり、あるいはプレミアム商品券のような形をしたり、そういった様々な、本当に地方が工夫しています。

私どもは、1回目のたしかチャレンジは、町なかの、何て名前だったかちょっと正確に覚えてないんですが、町なかの何か小さなリビングとか何とか、そんな言い方をしたような気がするんですけど、社会実験をやったんですね。町なかっていうか何かそういったスポット的に、公有地に、公園というのはちょっとつらいかもしれないけれども、人がちょっと休んだり、あるいはそこで食事ができたりするような空間を整備した。それは議員も御覧になって、御承知だと思います。そして、その下田市の社会実験は、内閣府だったかな、のホームページ上で、いい事例というふうな形でインターネット上で紹介されていました。

私は、どちらかという、こういうコロナ交付金でしっかりまちがよくなるといったほうに使いたいというふうに前から一貫して申し上げております。要は、この今、議員御指摘のとおり、子供たちのための遊具、こういったものにコロナ交付金は、私は最も有効であるというように考えています。このコロナの中で、今、子供たちがすごく成長の貴重な時間を何となく制約を受けて、気の毒な状況にある。そういった子供たちが楽しく外で走り回ったり遊べる、そういう空間整備に私たちはこれを活用するのは上策であろうと思います。

それは、ただ、専らまどが浜海遊公園に限らずでございます。ですから、海遊公園を含め、市内のどういうところに今回、コロナの交付金を充てることが合理的なのかということについて、これからも私どもはしっかりと検討してまいります。

結論を最後に申し上げますと、今年度内に何らかのアクションを起こすことを目指して、これから検討してまいります。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 3番 鈴木 孝君。

○3番（鈴木 孝君） ありがとうございます。期日も定めて、目標を定めていただいたことに、本当に要望した方も安心していただけたと思います。

この署名を集めて提出するということも、割と自分たちで印刷したり、いろいろな活動をして、集計して、要望して、かなり大変な作業だったと思います。この子育て世代の方々がそれだけ労苦をいとわずいろいろな活動をして、それで市が動いてくれて、市も市長をはじめ各課でいろいろな検討をしていただいて、様々な問題を解決していった、その姿勢を見せることによって、それがその後解決されて、実際に物事が進んでいった、夢が実現するという、このことが非常に大切じゃないかなと思うんです。お金のある自治体で、何も知らない間に、いつの間にか遊具が設置されているよりは、お金がない中で苦労して様々な問題を解決していった、ようやくできた、その喜びというものは非常に大きいんじゃないかと思

ます。

そして、その喜びが、何でしょう、下田を愛する力になって、また、例えばお父さん、お母さんが一生懸命要望してこの遊具できたんだって伝えることによって、子供もそれを聞いていて、聞いていてそのときは分からないかもしれないけれど、大人になったら思い出して、ああ、まだこの遊具がある公園があるなど、子供のとき、お父さん、お母さんがいろいろ頑張ってくれて、そのときの下田市もいろいろ頑張ってくれてできたんだという思い出が、またこの下田市を愛する力として、また戻ってくる、下田を支えようとする責任感にもつながってくるのではないかと思います。

ですので、これを、この様子が例えばユーチューブやいろんなもので配信されることによって、それを見る方がいらっしゃると思いますので、そこからまた頑張っていていただいて、夢を実現したいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

以上で終わります。

○議長（滝内久生君） これをもって、3番 鈴木 孝君の一般質問を終わります。